

ふるさと奥尻通信

平成28年8月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

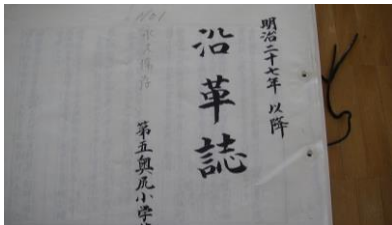
巻頭言

子供一人を十分な教育を受けさせて、本人の希望通りの大学を卒業させるには最大で約2500万円かかるそうです。勉学には時間的、金銭的余裕が必要だ、ということなのでしょう。

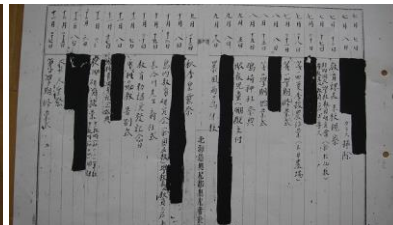
特集 学校沿革史にみる昭和20年

昭和20年(1945)は日本近代史史上類を見ない転換期となったといえます。新年から連合軍との決戦が叫ばれ、3月10日の東京大空襲に始まる無差別攻撃、6月の沖縄玉砕、7月の東北、北海道地方空襲により、一挙に民間人の犠牲者が増加、8月の広島・長崎への原爆投下により帝国は破滅しました。他方、奥尻ではどうであったか。稲穂国民学校(稲穂小)の沿革史を紐解くと、時代に翻弄される人々の姿が見えてきました(右表参照)。

4月29日の天長節とは、昭和天皇の誕生日のことで、11月の明治節は明治天皇の誕生日です。5月の閑院宮国葬含め、皇室の儀礼に則って国民生活の基本が定められていました。地域の行事では、現在も続いている賽の河原祭りに参加して、教練の成果を披露し、稲穂灯台整備の補助や塩の自給自足を試みています。終戦日の具体的記述はありませんが、間もなく島内でも”昭和の刀狩り”と被災民への物資供出が行われました。占領軍による教育改革が始まり、9月20日には文部省が戦時教科書の不適當個所の削除を指示し、教科書の墨塗りが始まります。



稲穂小沿革史



沿革史の墨塗り部分

沿革史をめくると、昭和7年(1932)から墨塗りの項目が見え始め、昭和19年度は51項目中16項目(32パーセント)が黒く塗りつぶされています。主に学校配属将校や出征兵の見送り、帰還兵の出迎えなどの軍事関係が消されていきました。

10月14日には戦時教育令が撤廃され、教育界は180度の急旋回により、軍国主義を否定することとなりました。

新村校長の学事報告には「大東亜戦の終焉は歴史的急転換をきたしまして、ここに万こく苦杯のもと祖国平和建設へ出発することになりましたことをご承知の通りであります。したがってその根源たる教育も全面的瓦解をきたしまして、連合軍干渉のもとに改廃の運命を辿ることになりました。従来の日本の教育観と経営は到底これを許さず、教科書内容の変革は逐次指令のもとに廃止となり、すでに修身、国史、地理等は全廃となったのであります。その他、教科についてみましても軍国主義、全体主義の内容は払拭し、真に平和への進展教材のみ残され、面目全く昔日の面影はみられないのであります。もちろん、過去の教育は是正すべきは当然でありまして、ここに我々の観念一掃をきたしているのであります。(後略)昭和21年3月19日卒業式において」とありますので、GHQや文部省の指示のもと、教育改革が一気に推し進められたことが覗えます。

秋口から軍人の復員が始まり、戦地や外地に行っていた人々が続々と帰国し、11月の頭には慰労会が開かれています。新年を迎える前には、青年団が改変されて「新青年団」を名乗り、新たな在郷組織として再出発。年が明けてからは、いよいよ学校で最も大事にされていた御真影(天皇陛下の肖像)が奉還されています。島内の学校から一斉に回収されたのでしょう。



昭和23年頃の稲穂小児童と教員

稲穂国民学校沿革史 昭和20年度 抜粋

| | |
|--------|----------------|
| 4月2日 | 始業式及び入学式 |
| 4月29日 | 天長節儀式挙行 |
| 5月3日 | 児童身体検査 |
| 5月24日 | 閑院宮載仁親王国葬 |
| 6月23日 | 賽の河原祭(学校体練会) |
| 7月1日 | 灯台石運び作業(初三年以上) |
| 7月26日 | 自給製塩会議 |
| 8月15日 | 連合軍に対して降伏せり |
| 8月20日 | 平和再建の詔書奉読式 |
| 9月5日 | 降伏調印式 |
| 9月13日 | 米軍帝都進駐(マ元帥) |
| 9月28日 | 一般家庭の刀剣その他武器供出 |
| 10月4日 | 戦災者に対する防空頭巾供出 |
| 10月14日 | 戦時教育令撤廃 |
| 10月17日 | 神嘗祭 |
| 11月3日 | 明治節拝賀式挙行 |
| 11月5日 | 復員軍人慰労会 |
| 11月12日 | 新教育方針伝達会議 |
| 11月23日 | 新嘗祭 |
| 12月9日 | 新青年団結成式 |
| 1月21日 | 御真影檜山支庁に奉還 |
| 2月11日 | 紀元節儀式挙行 |
| 3月1日 | 円の切替え |
| 5月5日 | 進駐軍検閲 |

稲穂国民学校卒業生のIさんの話

戦時中だからと言っても、生家が商店をやっていた関係からか、うちには米があった。島のアワビを干して青森まで船で運び、かわりに米を積んでくるのさ。雑炊も食べていたが、学校へはおにぎりを持って行っていた。学校ではさっぱり授業は行われず、奉仕作業ばかりだった(例えば、稲穂小では軍馬の飼料用に赤クローバーの種を集める奉仕作業が行われていた)。防空壕を造って訓練もした。自分は高等科を卒業して終わり。18歳で父を亡くしたから、女の私も働くためにイカ釣りにも出た。25歳で結婚したけど、まわりよりも遅いほうだった。(取材時83歳)



大火前の奥尻市街地の風景ですので、昭和30年代前半でしょうか。左手前は「御菓子 食料品」の看板を掲げた商店で、「津軽三年味噌」と「旭硝子」の販促看板も見られます。現在の澤田商店の前から奥尻十字街(信号)方向を眺めたものです。商店街の並びには、「北の誉」の銘が見えますので、山下商店でしょう。右手の大きな瓦屋根が玉井商店の旧店舗で、「たばこ」の看板が。その前にボンネットバスが停車しています。通行人がちらほら。道路は未舗装で、中央がわだちで凹んだので砂利で補修してあります。初夏の頃でしょうか。まだまだ木造家屋が並ぶ昭和中期の風景です。昭和35年当時の奥尻村の人口は1516戸、7905人でした。



学芸員オス
スメの一冊を
ご紹介しま
す。本は海洋
研修センター
図書室で借り
られます。

藤岡みなみの穴場ハンターが行く！in北海道
北海道新聞社

北海道の穴場をめぐる旅。ガイド本に載らない道内のローカルな話題を取材している旅番組のダイジェスト版。奥尻は出てませんけど。確かに、道民でもこれはまったく知らなかったな、というものばかり登場します。そもそも「穴場」の定義はあるのか？あまり知られていないもの？いや、表面的には見えてこない内面的なモノでしょうね。

月刊 奥尻のつり 8月号

島に根付いている磯魚は沖へ行ってしまい、エサ釣りの人はすっかり夏休みに入り、釣り人は見かけません。どっかりと釣り座を構えているのはカニ釣りの人ぐらい。このカニは一度脱皮をするそうで、その時期のはさっぱり美味しくないとのこと。9月ころからまた味が出てくるのでしょうか。島内各地の港ではイワシが出たり入ったりしていますので、それにあわせて港も賑わいを見せています。そろそろアジも大きくなってきたので、サバとともにいただきます。また、今年はカマスが多く入ってきており、より南方の魚が多くなってきたような気がします。シマゾイやマダイの幼魚もいるのですが、こちらは滅多に釣れません。第一、釣れても食べられる大きさではないのですがね。松前小島ではコブダイが釣れているらしいですよ。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第12回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

たーてりかいのさ起えけいだたれさて達草が
道迎來にーと代んこにて。らーんか飯取、今
えた行たい理にさ行い祖起鳥とにらをり霧日
具に。くんうと聞なっる母さ賊頼ー、喰だのは
を行祖服だかしいかた。さてつん船針っ。為薬
船ー母着ーらてたっん兄ん来りで来仕て飯にを
にたさてと手ーらただ達一たに寝た事寝喰かけ
運船んい言前人ーん。は人ら行たらをていけ
んだにたっばで役だー兵隊針達頃眼こてた来れ
だー聞らた起も場よ俺隊針達頃眼こてた来れ
ど。とい船。こ出でーばさ仕がのをしい。たずと思
言たが鳥され其となん事い有醒てる飯ら、っ
っら入賊なばの祖しををな様まく祖喰、豆た
っ釣 良家母て迎統 し 母っ兄の

のてだは花大年久七かく
でいった火火祭、々日っ打島
すたたまが師で赤の開たち内
。だた見がは石花催花上の
くめまら用、地がの火げ産
こ、悪れ意小区咲なでら業
とそ天まし規のきべしれる祭
にれ候すた模保まるがつた
なをで。打な食しるがこは
つ提未こちが神た祭、とは
た供使と上ら社。り二が長
もし用しげも例毎で十なら

なべつる祭りで花火



合同チームのみなさん

はのりしこい投に君た国勝苗体
快三にそと、げーは。大で奥連北
拳位出うを引た球 青会札尻全見
に入場。し退が一準苗へ幌合同市
沸賞しそてす、球決中の柏同大で
きをたれしる失に勝二切丘野会
ま果子でま三点思で年符中球にわ
したしもっ年しいはのをに部進
たしム、た生てを勝高逃敗は出
。、は八ーにし込つ田しれ、しい
島、年と悪まめた侑まで準た
内初ぶ悔い ため大し全決青中

中学野球部全道三位

でて斬をすまにきすも夏い
しい新見。だ振ま。うはり今
たるでま初につしそ秋忙ま年
けだししめグて、うに；くた。暑い夏
どけたたてズし、そ；とて、ど夏
ねで。が函グま地う、い、ど夏
。遠館ズい元、う、い、ど夏
踊卷イのしまの夏う気うが
りきカ港てし祭風感がもや
まに踊まいた。邪じ付奥つ
せ眺りつま。ををでけ尻て
んめがり い棒引 ばのま

新祭之記録(編集後記)

かちのしのとた無(神まがで
どは火い子と。事神社し復神今
うあを霧宝もたに威でた。活興年
しる消困山にだ例(山)は。しと
てのし気が運、大)例また、山
でたで出行こ祭が年た、地車苗
すくすなしれが、あり通、元(の
がな。くてま終り奥を恵言代
い伝ないです、山尻盛比主
な、続れた神し今車のり寿主
か気文、谷威ま年巡澳上(山)神
な持化寂地山しも行津げ)社

島内神社祭りの景況



うにまるチロルチョコ